

# 令和5年度 土浦日本大学高等学校自己評価結果

本校の目指す学校像	<p>日本大学の建学の精神を礎とし、次の方針を掲げ、21世紀にふさわしい充実した学園生活を目指す。</p> <p>(1) 一人ひとりの志を大切にし、その実現を支援します。  (2) 心身ともに健康でたくましく気品ある人を育成します。  (3) 基礎学力の充実に徹します。  (4) 積極的な進路指導に力を入れます。  (5) 国際化・共生化に対応できる能力開発に努めます。</p>
-----------	--

本校の特徴および課題	<p>本校は、日本一のスケールと多様性や可能性を持つ総合大学、日本大学の附属高校であるという安定した基礎の上に、生徒一人ひとりの志を尊重し、その成就を支援する3コース5クラス制を敷いている。各コースの特色を活かして、1. 学力向上に関する取り組み、2. 進路指導に関する取り組み、3. 学校生活に関する取り組み、4. 生徒会・部活動に関わる取り組みなどを連携させ、生徒一人ひとりの目標にしっかり答えられるよう、指導力の向上に継続して努力したい。</p>
------------	--

令和5年度取組結果	<p>新学習指導要領に基づいた学習も2年目を迎え、新旧カリキュラムが混在する状況の中で混乱なく指導を進めることができた。大学受験においては、大学入学共通テストの傾向に合わせた指導や総合型・学校推薦型選抜の積極的な活用など、生徒に合わせた指導を展開した。今後も文部科学省・大学入試センターから提示される方針に注視し、時代に即した教育を実施していきたい。日本大学へは附属高校推薦入学制度への対応が機能している。日々の教育内容については、表現力を高めるためのアクティブラーニングの実践や、生徒全員がiPadを所有することとなったICT教育など、様々な面で教育活動のレベルアップが図られている。これらの教育活動の成果として、進路実績も日本大学への進学者数は目標を達成し、国公立大学への合格実績も成果を上げる結果となった。施設面では、暑さ対策として教室への遮熱カーテンの設置、防犯対策として防犯カメラの新調を実施した。次年度は、経年劣化によるエアコンの一部取り替えやコンピュータ室へのPC新調など、教育環境の充実を図る予定である。</p>
-----------	--

目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況	<p>A：取組目標が達成された      B：目標はおおむね達成された  C：課題を多く残している      D：成果が出ていない</p>
-----------------------	---

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
教育活動(教務)	①目標の設定について	新学習指導要領への移行期間における円滑な業務運営	B
	②活動の実際について	新旧のカリキュラムが混在する状況の中で、比較的大きな混乱もなく進めていくことができた。観点別評価についてもスムーズに導入できており、概ね良好である。通信制課程については3年目となり、全日制課程との連携もかなりの部分で連携が図れるようになってきた。	B
	③活動の点検について	年度当初の時間割の設定において、特に新たなカリキュラムが円滑に実施できるように最善の注意を払った。教科主任会議や通信制課程との連携を密にとり、懸念事項について適宜修正を図ってきた。カリキュラムの実施については、全日制課程だけでなく通信制課程においても年間を通して確認しながら進めた。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
教科指導(教務)	①目標の設定について	行事内容の精査と円滑な実施	B
	②活動の実際について	新しい振鈴がスタートして2年目を迎え、昨年度以上にスムーズに行事を円滑に進めることができた。コロナ感染症が落ち着きを見せ、従来の行事の実施も可能になってきた面が多い中で、コロナ以前の行事ありきではなく、年間を通した行事の精査を意識した取り組みができてきている。しかしながら、行事の数に圧迫されている感は否めず、今後の更なる精査が必要でもある。	B
	③活動の点検について	行事予定編成会議を通して各学年、部署等と調整を行った。特に、昨年度より新たな振鈴がスタートし、従来とは違う形での行事の実施が求められたことで、慣例にとらわれない検討が必要となった。外部模試の精査については、経費や授業時間確保という観点も踏まえた上で検討を進めた。また、今後もコロナ禍を踏まえて柔軟な対応ができるよう年間を通して行事内容を見直していく必要がある。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
学校生活への配慮 (生徒指導)	①目標の設定について	①あいさつの励行 ②端正な服装頭髪の徹底 ③いじめの根絶 ④社会のルールやマナーの遵守	A
	②活動の実際について	①あいさつの励行：コロナ禍でのマスクを着用した生活が長く続いたこともあり、未だ大きく元気な声でのあいさつはできていないが、以前より改善し良くなっていると感じている。学校生活の様々な場면을指導の機会と捉え、指導を継続したい。 ②端正な服装頭髪の徹底：本校の規定を意識して、身だしなみしっかり整えている生徒が多くおり、おおむね良好である。 ③いじめの根絶：いじめとなりそうな事案を早期発見し対応できた結果、大きな問題にならずに済んでいるが、SNS使用時のルールや情報の発信方法など繰り返し指導を行い、さらなる情報モラルの醸成に努める必要がある。 ④社会のルールやマナーの遵守：苦情については学校周辺の路上や近隣店舗駐車場の送迎、一部の生徒の登下校中の歩きながらのスマートフォン使用がある。しかし、多くの生徒はきちんとしており、トラブルやクレーム等も年毎に漸減している。	B
	③活動の点検について	定期的に生徒指導部会議で問題点の共有を踏るとともに、登下校時における立哨指導や通学安全週間での指導や見守り活動を継続してマナーの向上に努めていく。また、朝の打ち合わせや生徒指導部週報を活用して先生方にも情報提供しタイムリーに指導を行う。保護者宛メール文書にも現状の問題点など記載し理解、協力を継続的に促す。特に、自家用車による送迎は保護者へのメール配信を利用して、更なる理解協力を促していく。いじめの根絶については、いじめ防止対策室・教育相談室・保健室との連携を密にして根絶に取り組んでいく。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
生徒会・部活動 (生徒指導)	①目標の設定について	生徒会、常任委員会、部活動において、生徒が主体的な活動ができるようにする。	B
	②活動の実際について	【委員会活動】 令和5年度は生徒指導部が担当した。 【クラブ活動】 運動部・文化部ともに活発が活動がなされるよう予算配分を深慮し、活動結果がスムーズに広報できるよう連携を強めた。 【応援活動】 諸感染症に配慮しつつ体育館に全校生徒を集め壮行会を計画・実施することができた。応援部、吹奏楽部、チアリーディング部をまとめ各大会において応援を盛り上げることができた。 【取り組み結果】 生徒会役員が牽引役となり、生徒が主体的に活動できるよう心掛けた。	A
	③活動の点検について	生徒会、常任委員会、部活動の各担当教員によるレポート内容を確実に把握し、生徒への支援につなげる。情報発信にも努めたい。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
進路指導	①目標の設定について	①日本大学付属推薦入試への適切な対応 ②国公立大学、難関私立大学の合格者数の増加 ③推薦入試、調査書、進路統計、各種調査報告等への適切な処理 ④各種講演会の開催 以上の目標を掲げたが、概ね良好に運営でき、着実に成果を挙げた。	A
	②活動の実際について	①日本大学本部及び各学部との良好な関係構築に努め、迅速かつ正確に情報を収集するとともに、推薦基準や受験手続等に関する情報を遅滞なく関係部署へ周知し、共有することができた。また、日本大学学校推薦型選抜（付属高等学校等）の仕組みを解説した動画を作成し、父母と教師の会支部会や保護者会等を通して、保護者への周知を図った。生徒一人一人にとって満足度の高い進路実現に努め、結果として全日制課程の日本大学学校推薦型選抜（付属高等学校等）における合格者は、四年制大学258名、短期大学2名の計260名に達した。通信制課程からも、12名が基礎学力選抜を利用して日本大学への進学を果たすことができた。日本大学医学部医学科に基礎学力選抜方式で1名の合格者を出したのも特筆すべき点である。 ②国公立大学の学校推薦型選抜・総合型選抜では、筑波大学18名の合格をはじめ合格者の合計は39名となった。特進コースにおける推薦対策のノウハウが蓄積され、指導が功を奏していると言える。 3月21日現在、国公立大学合格者103名、東京大学1名、北海道大学1名、東北大学1名、筑波23名、九州大学1名、茨城大学17名、茨城県立医療大学4名のほか、医学部医学科にも合格者を出すことができた。難関私立大学合格者は早稲田大学11名、慶応大学6名、上智大学6名、東京理科大学28名、明治大学16名、青山学院大学10名、立教大学13名、中央大学19名、国際基督教大学3名に加え、岩手医科大学・獨協医科大学・北里大学・東京女子医科大学・日本大学の医学部医学科にも各1名の合格を得ることができた。入試対策指導は今年も実を結び、進路実績全体に大きな成果をもたらしている。 ③調査書や推薦書等の出願書類の発行作業については、学年団、教務部、情報処理室、事務局と連携を取り、また開始時期を早め時間に余裕を持たせたことで、遅滞なく行うことができた。また、教員が作成した推薦書や調査書、生徒が作成した志望理由書等については、次年度以降の進路指導に役立てられるよう、データを集約、蓄積していく作業を進めている。進路指導資料や基礎学力到達度テスト結果分析等においては、掲載情報を点検し、内容を充実させることで、担任の進路指導に活かせる資料の作成に努めた。また、今年度より特進コース推薦入試合格者の合格体験記を作成し、後進の意識高揚に役立てていくことになった。 ④歯歯薬医療系講演会、日大出張講義3回、法曹界講話を実施した。父母と教師の会各支部が主催する進路講演会等に出席し、進路情報の提供に努めた。	B
	③活動の点検について	①日本大学学校推薦型選抜方式の出願方法や合格後の手続き方法が年々変化している。確認不足などからミスが発生しないよう注意する。生徒・保護者の志望学部・学科などの確認を確実にし、若手担任教員への支援と情報提供にも引き続き努力する。 ②国公立大学、難関私立大学合格者数増加のため、推薦入試に対する指導から、その内容や方法の確認を怠らないようにする。日本大学のN方式については、付属のメリットとして一般受験の生徒についても指導を確認する。 ③新課程に向けて、英語4技能に係る指導を、英語科・教務部と強化していきたい。調査所等の書類形式についても、教務部・情報処理室との連携を確実にして準備を進めたい。進路統計、各種調査報告等への適切な処理・運営については、これまでの形態に甘んじることなく、さらに改善を図っていく。 ④生徒対象の講演会は生徒の事後レポートを点検することとどまらず、ポータルサイトに蓄え、推薦資料としての活用を備えたい。父母と教師の会の各支部から依頼を受けている進路講演会は、動画視聴にしている。その形態を検証したい。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
体育施設	①目標の設定について	教職員及び生徒の安全管理	B
	②活動の実際について	事務局と連絡を取り合いながら、補修を行うことができた。 また、破損箇所を見つけるだけでなく、「どうすればより良い活動ができるか。」を考え、けがや事故のない施設の管理を行うことができた。 右靱帯グラウンドの砂量の調整など、季節に応じて整備できた。	B
	③活動の点検について	事務局担当者と連携して、年間を通して施設を見回り確認管理を行った。また、老朽化だけではなく、ぶつかったりして破損するところを発見修理することができた。しかし、「壊れたら直す」の前に「壊れないように」使用する指導も行なった。常に安全管理ができるように年間を通して見回ることができた。右靱帯グラウンドは、芝生が剥けている箇所が数箇所あり、コースも砂量の違いのせいか、全てが均等になっていなかったため、季節も考えながら年間を通して整備できるように点検できた。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
保健衛生	①目標の設定について	①感染症対策の充実を図る。 ②生徒及び教職員の健康の保持増進を図る。 ③教育環境の保健安全確保を図る。	A
	②活動の実際について	①昨年度に引き続き学校欠席者情報システムとインフルエンザ・コロナ感染防止対策としての欠席者情報の運用で、新型コロナウイルスによる感染の拡大防止に対応した。また、生徒への検温・手指消毒の奨励を行った。 ②コロナ禍においても健康診断を、校医の先生方の協力により年間を通して実施することが出来た。生徒一人ひとりの健康状態を把握し、健康及び生活習慣の適切な健康指導を実施、保健室の適切な利用の啓蒙を継続している。 担任との連携を通して、悩み等の相談にカウンセリング室を利用しやすい環境作りに取り組んでいる。コロナ禍の中でも相談できるようにオンラインでの相談も実施した。教職員の健康に関しても、年間計画の中で健康診断を実施し、健康管理及び生活習慣の改善等の助言を実施してきた。 ③産業医と衛生委員会を中心に、事務局との連携において学校環境の安全・安心のための環境整備、改修が長期計画の中で進められている。また、常時衛生委員会を中心に学校環境の安全・安心への対策配慮がなされている。 今年度に関しては、コロナ禍の中、現状を知ると同時に、感染症対策や健康管理についても話し合い、教職員への情報提供を行った。	A
	③活動の点検について	①欠席者について毎日情報を先生方で共有し問題なく順調に機能し、早期の対応ができていないか確認している。 ②産業医と保健室が連携し健康診断実施率は100%であり、事後措置も徹底されている。 ③衛生環境に関して、事務局より定期環境衛生検査等が専門会社において定期的に検査、点検が実施されている。事後措置も徹底されており、学校環境の安全・安心への対策がなされている。 ④保健室のセンター的役割を充実させて、生徒の健康・発達課題に対して教職員との連携を行い組織的な支援をとってきた。また、衛生委員会が健康・精神衛生面での情報の提供等を実施し、感染症対策においても流行時期には予防等の情報や提案を通して流行拡大を防いできた。そして、当年度のコロナ禍に対し、現場対応が出来るだけの備品の備蓄をいち早く充実させたい。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ活動の達成状況
教育相談	①目標の設定について	「生徒の学校生活への適応と、教員の不適応生徒への対応を支援する」という目標および、そのための①～⑨の取り組み方策の設定は適切であった。	A
	②活動の実際について	①「新入生に対する教育相談ガイダンス」は計画通り実施することができた。構造的グループエンカウンターにおいては、新入生の仲間づくりのきっかけとなった。また、学年、担任による生徒の理解を深めることに寄与できた。 ②「学校不適応調査の実施」については、担任の入力内容をもとに生徒の状況を把握し、対応することができた。 ③「高校生活に関する調査」については、教育相談に関する設問に留意して、学年の協力のもと生徒の状況を迅速に把握し、対応することができた。 ④「カウンセリングの実施」に関しては、生徒や保護者の希望で実施したり、担任や教育相談部員、カウンセラーからの必要に応じて実施したりするなど、随時実施した。電話相談やリモートでの相談も実施した。 ⑤「保護者との連携」については、新入生ガイダンスブックに「教育相談体制」を掲載したり、保護者会資料に教育相談に関する内容を提示したり、本校HPに「スクールカウンセラーだより」をアップしたりするなど、保護者への周知徹底を図ることができた。 ⑥「特別支援計画の立案」については、今年度は該当するケースがなかった。 ⑦「スクールカウンセラーとの連携による担任支援」については、常に情報を共有し、生徒・保護者に対応する担任の支援をすることができた。 ⑧「定期的な教育相談部会の開催」については毎週月曜日と木曜日に教育相談部会を設定して、各コース・学年からの情報を教員間で共有し、不適応事案に対して早期対応することができた。 ⑨「スクールカウンセラーによる支援体制の強化」については、カウンセラーが毎日来校する環境を維持することでつながりやすい環境を保ち、カウンセリング内容についてはできるだけ教員間（場合によっては保護者）で共有し、生徒はもちろん、保護者や担任の支援につなげることができた。	A
	③活動の点検について	担任が随時入力できる「学校不適応調査」の内容や保健室を訪れる生徒の様子などを共有し支援策を検討する教育相談部会をこまめに開催することで、生徒の状況変化への対応や、新たに不適応傾向が見られる生徒への早期対応、生徒対応に悩む教員の支援などに繋げることができた。こうした状況は、年6回「要支援生徒リスト」としてまとめ、学年主任や管理職ともその都度問題を共有してきた。一方で、新型コロナウイルス感染症の扱いが5類に移行したことにより、昨年度までは体調不良による出席停止扱いに隠れていた不登校傾向のある生徒が欠席日数を顕著に増やしたり、受け皿としての通信制高校の拡充が進んだりしたことで、転学者が一定数いることは今後の課題である。また、児童相談所から学校への問い合わせが近年増加しており、家庭内での生徒を取り巻く環境が適切でないケースがあることを実感させられる。社会全体で子どもを守るという観点から、場合によっては保護者に対して毅然とした立場を取るべき学校の役割を再認識する必要がある。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
いじめ防止対策	①目標の設定について	「本校いじめ防止基本方針に基づいて『未然防止』『早期発見』『適切な対応』『再発防止』の各取り組みを実行し、学校を挙げて『いじめ根絶』の目標を達成する。」という目標設定は適切であった。	A
	②活動の実際について	(1)「未然防止」について 生徒集会におけるいじめ防止講話については、予定通り実施することができた。4週に一度の生活目標として「いじめの根絶」を掲げて担任から講話を行う取り組みは、今年度も実施できた。1年生に対するネットモラル勉強会、1・2年生に対する構成的グループエンカウンターは、教育相談部と連携し学年の協力を得ながら例年通り実施できた。 (2)「早期発見」について 年度初めの教職員会議で、全教員に対して「いじめ早期発見のためのチェックリスト」の活用を呼びかけた。いじめ調査は、計画通り年3回学期毎に行った。また、担任が保護者面談の機会にいじめの聴き取り調査を行うとともに、教育相談部やカウンセラーとも連携し早期発見に努めた。 (3)「適切な対応」について いじめ調査の結果や生徒からの相談があった案件については、すべていじめ防止対策室全体会議で取り上げ、管理職へも報告した。いじめが疑われる案件については、客観的事実に迫れるよう複数教員で聞き取りや調査にあたり、特定教員の抱え込みを防ぐよう努めた。今年度のいじめ認知件数は2件であった（昨年度は3件）。いずれも重大事態には該当しない。 (4)「再発防止」について 今年度いじめ認定した2件については、いずれも担任および関係教員の適切な指導および保護者のご協力により加害生徒の反省を得ることができ、3ヶ月後を目途として被害生徒および保護者から解消の確認を得ることができた。 (5)教員の共通理解について いじめ防止対策室長および議長が毎月の職員会議において話をするすることで、教員全体のいじめ防止に対する情報共有と意識向上を図った。	B
	③活動の点検について	いじめ被害に遭った生徒や保護者が最初に相談するのは一番近い教員である担任や顧問であることが多いため、「いじめ問題は全教員の問題である」という認識を共有し、教員個々々が対策室と同じスタンスでいじめ問題を認識できているかを自己点検する契機として、毎月の教員研修を実施することができた。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
図書	①目標の設定について	<1>新書の充実に努める <2>蔵書点検の効率化を図る 上記の目標設定については、適切なものであったと考えている。 蔵書の確認をスムーズに進めながら、図書館の魅力度アップを目指したい。	A
	②活動の実際について	<1>新書の充実に努める ①授業・探究学習のテーマに関連する新書の購入 ②新聞で時事を確認、社会情勢や国際関係分野の新書を購入 ③書店の新書本ランキングで、世相を反映したり、話題となったものを購入 ④新書の各種大賞受賞作を購入、展示コーナーでも紹介した。 これらの取り組みにより、新書の一定の充実ができたと感じている。今後も図書館の魅力を高めるために、取り組みを継続していきたい。 <2>蔵書点検の効率化を図る ①古い書籍のバーコード貼付位置を改良し、一冊ずつ引き出してなぞるの必要が無いよう、背表紙などへの貼付位置変更を進めている。 ②貴重本、大型本、箱入本などについても、確認作業がしやすいよう、バーコードの貼付位置を工夫したり、外箱にも貼付するなどの変更を進めている。 ③古くなり、利用価値がなくなっている資料・書籍は順次廃棄していく。 これらの作業を進めることで、例年夏の期間に行っている点検作業の効率化を図り、8万冊を超えた蔵書の適正な選別と適正な維持管理をしていきたい。	A
	③活動の点検について	<1>新書の充実に努める 新書本コーナーづくりについては、世界情勢や国内の時事・話題に関する資料、行事に関する資料を展示した。タイムリーに紹介するため、旬の本の情報を得ることに努め、早期の購入、装備を心がけた。また、長期休業前には、図書館便りで各コーナーの紹介をし、利用を呼びかけた。同年代の薦める本や新しい本との出会いのきっかけを作る狙いで、階段踊り場に設けた図書委員会のコーナーでは図書委員会作成のポップを活用し、図書の紹介を行った。 <2>蔵書点検の効率化を図る バーコード貼付位置の変更については、継続して作業を行っていく。通常業務と並行しながらの点検作業のため、時間や作業量の負担軽減を考えたさらなる工夫を重ねていきたい。また、転学や転籍の生徒に貸し出した書籍資料が、紛失にならないよう、返却が遅延の物は、コース・学年と連携し、早めの対応ができるようにしたい。 <3>その他 年度途中から館内に地形図等を受け入れ、配置した。モニターとして地図の活用状況を報告する事になっている。探究学習や地歴公民科の授業などを中心に、積極的な利用を呼び掛けていきたい。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
広報 (情報入試)	①目標の設定について	<p>1. 茨城県および千葉県における受験生の獲得 本校は、茨城県および千葉県における受験生の獲得に向け、積極的な広報活動を展開している。各種広告媒体を活用し、本校の魅力を伝えるとともに、入学試験の情報や学校生活の魅力を伝えることで、受験生の関心を高める取り組みを進めている。</p> <p>2. 単願推薦の受験生および海外入試の受験生の増加 併願試験の手続き率を分析した結果、本校を第一志望とする生徒の先行獲得が重要であると判断された。そのため、単願推薦の受験生や海外入試の受験生を増やすための施策を検討し、実施している。これにより、本校を志望する生徒の増加を見込んでいる。</p>	A
	②活動の実際について	<p>1. 見学会・説明会の取り組み 各見学会や説明会のたびに新たなリーフレットを作成し、地域の中学校や学習塾へ積極的に配布した。これにより、学校の魅力や特色を広範囲にわたり紹介した。</p> <p>2. 学校公開イベントの設定 毎月1回の頻度で学校公開イベントを実施した。このイベントを通じて、各コースの特色や入試に関する詳細情報を提供し、受験生とその保護者に直接アピールした。</p> <p>3. メールマガジンの配信 定期的なメールマガジンを通じて、受験生やその保護者に向けて最新の情報を提供した。学校生活やイベントの様子などを紹介し、関心を喚起した。</p> <p>4. 単願推薦試験の評定加点制度 単願推薦試験において、評定加点制度を設定し、学業成績が優秀な生徒に対するインセンティブを提供した。</p> <p>5. 個別面談の実施 学校への志望度を高めるための個別オンライン面談を実施した。各家庭の不安や疑問を解消し、本校への理解を深める機会を提供した。</p> <p>6. 海外入試の展開 オンライン入試と現地での学力入試を併用し、国際的な学生の獲得を目指した。</p>	A
	③活動の点検について	<p>各イベントの受験生保護者の参加率が高く、行われたアンケート調査からは、インターネットやリーフレット、メールマガジンを通じた情報提供が有効であったことが判明した。この結果から、地道な広報活動が受験生の関心を引き付け、参加人数の増加に繋がったことが確認された。今後もこの取り組みを継続し、さらに広報活動を強化する方針である。また、SNS広告の活用により、短期間で多くの受験生に情報を届けることができるため、今後はこの手法にも力を入れていく予定である。単願推薦試験では、評定加点制度の検討を行い、中学校へのヒアリングを通じて生徒募集要項の策定を進めた。11月と12月に実施されたオンライン面談は、多くの家庭の参加を得て、本校への理解と関心の深化に寄与した。</p> <p>海外入試では、オンラインでのアドミッションズ・オフィス入試、東アジア・東南アジアでの学力選抜入試、国内入試の3種類を実施した。コロナ禍でも海外からの受験生が本校を受験できるよう配慮した。海外訪問による日本人学校教員や学習塾スタッフとの交流も有効であった。単願推薦試験の志願者は前年比で50名以上の増加を達成し、そのうち半数以上が評定加点を利用する受験生であり、制度の有効性が示された。海外入試においても志願者の増加を実現し、現地訪問による周知の徹底が成果をもたらした。</p>	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
管理運営 (教学)	①目標の設定について	<p>「調和の精神を尊ぶ青年が育つ、活気あふれる進学校」を目指す。 A)いじめ防止対策推進、B)国公立大学受験対策推進、C)基礎学力到達度試験対策推進、D)新学習指導要領・大学入試改革への対応、E)ICT教育推進などによる</p>	A
	②活動の実際について	<p>A)いじめ防止対策室中心に、啓蒙と指導を重ねた結果、県に報告するような重大事態の発生は今年もなかった。いじめ認定にいたる事例はあったが、対策室が学年主任・担任と連携を取ることで早期解決の対応を図ることができた。</p> <p>B)特別進学コースの習熟度に合わせた指導と対応が成果を上げている。推薦入試において筑波大学18名、茨城大学6名、茨城県立医療大学2名など39名が合格。前期日程終了時点では、東京大学1名、筑波大学23名、国公立大学合計100名まで合格を増やすなど健闘した。</p> <p>C)日本大学への推薦入学予定者は260名となった。総合進学コース3学年主導による集中講座や補習等の実施、および担任による生徒・保護者への出願指導により、今年度も多数の合格者を出すことができた。</p> <p>D)新学習指導要領が開始されて2年目になるが、大学付属高校としての高大接続教育ならびに各コースの取り組みによる探究活動により、基礎学力および深い学びを進めることができている。新カリキュラムと振鈴についても問題なく運用できており、教科主任会議を中心に改善点の検証も適宜進めている。</p> <p>E)全学年の生徒がiPadを所有し、授業だけでなく課外活動におけるICT教育も進められるようになった。生徒主体によるICT係も設置され、さらなる内容の充実と利用方法の拡大、併せて生徒の使用モラルの定着を進めていきたい。</p>	A
	③活動の点検について	<p>どの目標に対しても、“PDCA”のサイクルを常に意識し、点検と改善に努める。</p>	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
管理運営 (事務)	①目標の設定について	①予算編成(配分)方法の検証 ②教育環境の充実・維持 ③創立60周年記念事業の実施 ④諸規程の見直し	B
	②活動の実際について	①急激な電気料金の高騰をはじめとした物価高のなか、教育活動が円滑に行われるよう予算執行することができた。また、予算編成方法の検証と将来に対する計画立案について随時検証を行った。 ②ICT教育の基盤となる校内サーバの更新を行い、ICT教育への活用、校務上のデータの蓄積・事務処理について、継続的に、安全かつ円滑に実施できる基盤を整えた。また、生徒が安全に学校生活を送れるよう正門等の防犯カメラシステムを1台増設のうえ取替更新を行った。 本校硬式野球部が第105回全国高等学校野球選手権記念大会の出場に際し、甲子園への選手・応援団の派遣費用、それに伴う必要な物品購入などに使用するため、寄付金を募集し、関係各位からの多大なるご支援・ご協力のもと、滞りなく事業の遂行と事務処理を行うことができた。 ③本学園は、令和5年度に創立60周年を迎え、創立50周年からの10年間、また、創立からの学校の取組について編纂・発行等を行い、多くの関係者各位に感謝の念を表するとともに、学園の教育活動の充実・発展を広く伝えることができた。 ④諸規程全般について、インボイス制度に応じた出張旅費規程の一部改正を行うなど社会変化に応じた見直しを行うとともに、私立学校法改正に伴う研修会に参加するなど、次年度に向けた取り組みを実施することができた。	B
	③活動の点検について	①少子化の進行、物価高への対応など社会的な変化があるなか、予算編成方法の検証と将来に対する計画立案が重要となっており、令和5年度は、電気料金の高騰等の急激な社会状況の変化のなか適切に実施することができた。 ②教育環境の充実を図り、生徒が快適に学校生活を送ることができ、学びやすいと実感する整備を心がけていく。また、生徒の安全を第一義に考えて、必要な施設設備の整備については、優先的に取り組む方針のなか、重要性が高い事業を実施することができた。また、本校硬式野球部が第105回全国高等学校野球選手権記念大会の出場に際し、収受した甲子園出場寄付金は、税法上の優遇措置への対応、適切な管理等のうえ、目的に沿って使用した。 ③創立50周年からの10年間、また、創立からの学校の取組について、編纂のなかで整理され、今後の学校の発展を検討するための基盤とすることができた。 ④令和7年度に私立学校法改正が予定されるなど、諸規程の見直しが重要な施策となっている。今後も引き続き、諸規程全般について、社会的な要請、学校運営の現状等にあった形で変更が必要な内容を定期的に検証を行っていく。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
庶務	①目標の設定について	①行事計画の見直しと健全な部署組織の構築 ②父母と教師の会および同窓会の活性化。 ③防災計画の見直しと防災意識の醸成。	B
	②活動の実際について	①新型コロナウイルスが5類に変更されたものの、多くの行事においては活動制限を余儀なくされ、オンラインで可能なことと対面でやるべきことの精査を図りながらの活動再開となった。部内の組織化も進み、適した人員配置と作業割り振りができている。部会も定期的に関係部署関連行事の情報共有を行いスムーズな部署運営が行うことができた。 ②役員会の実施にあたっては、オンラインと対面を両立することで中止することなく活動した。また、研修旅行や甲子園を初めとする全国大会応援などの活動も本格的に再開することができた。 ③昨年度に引き続き、避難訓練を緊張感が保てるような方法を加えながら実施することができた。生徒だけではなく教職員に対する防災教育の必要性についても認識することができた。	A
	③活動の点検について	①各行事後に各係毎に意見をもらい、準備の効率化につなげられたかどうか引き続き点検していく。また、定期的な部会の開催で確認していく。 ②会長との密な連絡と内容の確認していく。 ③施設の点検等事務局との連携を進めていく。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
総合進学コース (含スポーツクラス)	①学習指導	<p>《進学クラス》</p> <p>1年生：高校生として習慣化すべき学習サイクルの中で、復習に重点を置き指導を徹底した結果、家庭学習の習慣化を養うことができた。また、教科と連携しLHRの時間を活用して小テストを実施し、そのテストに向けた事前指導を行うことで学習サイクルを確立することができ、学習への取り組み姿勢を養うことができた。</p> <p>2年生：学年全体で「朝学習」に取り組み、学習習慣の確立を図った。また、学年と教科が連携して「リーディングテスト」や「リスニングテスト」「古文単語テスト」をLHRやSHRに実施し、毎日の学習習慣を確立させると共に、学習時間の確保に努め、基礎学力の定着を図った。</p> <p>3年生：1年次より、「授業開始1分前に着席をする」を徹底することで、授業への取り組み姿勢や授業が大切である意識を培うことができた。また、学力の向上を目指し、定期考査や模試の結果をもとに確認テストや週末課題の実施など、様々な取り組みを行うことで、受験生としての意識や自主性を養うことができた。弱点分野の補強や強みの伸長などの目的を持って、放課後の課外やサマー集中ゼミ、基礎学力到達度テストの直前課外に参加することができた。各自が目標を達成した結果、好成績を収めることができた。</p> <p>《スポーツクラス》</p> <p>生徒個別の学力、性格などを把握することに努め、各生徒の個に応じた手厚い指導体制を構築した。学年教員、教科担当者、担任、部顧問で連携し指導した。文武不岐を追求し、学習週間の確立、基礎学力の向上を目指し、授業第一主義を根付かせるために全顧問で授業巡回などを行った。また、進路を自分で決められるよう主体性を育み各々に合った進学先を選択させることができた。</p>	B
	②進路指導	<p>《進学クラス》</p> <p>1年生：進路適性検査の結果や二者面談を通して、自身の特性を知り、将来の可能性を広げることができた。また、各種講演会に参加したり、進路ノートを活用したりすることで、自らの興味関心に基づく学問系統について学び、将来像を具現化するとともに将来の職業を意識し、先を見据えた文理選択や科目選択をすることができた。</p> <p>2年生：年2回の日本大学出張講義を始め、各種講演会に参加することで、大学での学びや研究活動への理解を深め、適切な職業観を養うことで、進路への意識をさらに高めることができた。</p> <p>3年生：志望理由書や小論文指導を通して、自らの関心事項について改めて理解を深めた。また、学年全体で面接指導や進路指導に関わることで、進路について幅広い視野や意見を持たせることが可能となった。3年間を通じて学年教員が一丸となって指導を行った結果、日本大学への進学者は、進学クラスでは233名(81.8%)、スポーツクラスでは19名(24.7%)、他大学への進学クラスの進学者は、学校推薦型選抜で、東京女子医科大学医学部1名、総合型選抜では、東京理科大学工学部1名、順天堂大学保健医療学部2名、東海大学体育学部1名、日本体育大学体育学部1名である。</p> <p>《スポーツクラス》</p> <p>生徒個別の学力の把握に努め、生徒の主体性を育むことを主とし、ホームルームなどを通して進路指導を行った。進路ガイダンスや日大出張講義などを通じ進路意識の向上に努め、総合型選抜、推薦、日大基礎学力などあらゆる受験への対応を図り、生徒の充実した進路実現に努めた。特に3学年担任と面談を定期的に行うことで、クラスの進路状況を随時正確に把握できた。また、保護者との連携も最重要項目としていたが、概ね達成できた。</p> <p>日本大学への進学はもちろんであるが、筑波大学3名をはじめ早稲田・明治・中央大学など各々に合った進学先を選択させることができた。</p>	B
	③生徒指導	<p>《進学クラス》</p> <p>各学年共に落ち着いて規則正しい学校生活を送ることができている。モラルやマナーを遵守すると同時に本校の規定を意識する生徒が多く、身だしなみを大きく逸脱している生徒はほとんど見られず、良好な状態が維持されている。高校生活に関する調査の結果を受けて、二者面談やこまめな声かけを随時行い、教育相談部、教育カウンセラー、保健室等の各部署と情報共有をすることで、生徒の把握・理解に努めることができた。</p> <p>《スポーツクラス》</p> <p>爽やかで礼儀正しい、けじめあるアスリートを目標に、「今やれることを全力で」取り組ませた。担任と部活動顧問が連携を図り、生徒指導にあたった。授業第一主義を掲げて居眠りや授業妨害などせぬよう教室巡回を徹底して行った。その成果もあり、大きな乱れやクラス間での格差がなくなり、学習効果も上がった。</p>	B
	④特別活動指導	<p>《進学クラス》</p> <p>今年度は、蓼科宿泊学習、修学旅行をはじめとし、文化祭や体育祭などの学校行事が通常に近い形で再開した。生徒の多くは、学校行事にも積極的かつ向上心を持って取り組んでいた。ボランティア活動や部活動に参加する生徒も多く、興味関心がある活動に積極的に参加することができた。修学旅行の事前学習において、他国の伝統や文化を尊重した上で、自らの意見を伝える表現力を養った。学校行事を通して、他者を理解しコミュニケーションを図ることやクラスの絆を深めることができた。個々の生徒が学習との両立を図りながら、様々な学校行事に参加し、自ら判断して行動することができた。</p> <p>《スポーツクラス》</p> <p>各種学校行事に率先して取り組み、他生徒からの信頼を受ける生徒に成長させることを目標とした。</p> <p>人の嫌がる仕事を率先してこなし、クラスメイトと協力して学校生活を送るよう指導した。スポーツ大会や体育祭などでは全力を尽くす姿がとても印象的であり、スポーツクラスが体操から牽引して率先して盛り上げることができた。</p>	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
特別進学コース	①学習指導	<p>難関大学に合格できる高い学力、専門分野への知的好奇心、ルール・マナーを守る社会性の3点を高めることを目的とした学習指導を行ってきた。特に、学校推薦型選抜に適應できる得意科目を伸ばす指導と探求型学習としてのインタレストラーニングを導入し、一定の成果を得ることができた。</p> <p>1学年：入学直後より英語の課外授業を開始することで学習量を確保するとともに、筆記テストや口頭試問においてアウトプットをさせ、その定着を図った。その結果、模試の偏差値においては、例年より高い数値を記録した。また、課外授業では模試の結果を元に生徒の習熟度に合わせたクラスで、きめ細かく指導したことで、生徒のモチベーション維持に繋げることができた。</p> <p>2学年：共通テストに向けて1年次より重視してきた国語の指導を継続するとともに、地歴、理科の学習においては取り残される者が出ないように丁寧に指導した。模擬試験の結果を見る限り、例年よりやや高い平均で推移しており、東大、京大、医学部で判定が出ている者もいる。今後、得意科目を見ながら学校推薦型選抜に向けた指導を開始する予定である。</p> <p>3学年：学校推薦型試験および大学入学共通テストを見据えた指導を早期より行った。特に、学校推薦型試験については出願者を早い段階で絞り込み、個別にきめ細やかな指導を展開し、志望理由書作成・過去問対策・面接指導などを重点的に実施することができた。また、一般受験に向けては、成績の習熟状況に応じて指導方針を分け、課題添削指導や論述対策指導、過去問演習、基礎確認テストなどを随時実施した。</p>	B
	②進路指導	<p>大学入学共通テストおよび新学習指導要領を見据え、難関国公立大学・私立大学へ多くの合格者数を出すことを目標に、一般入試だけでなく、様々な入試形態（総合型選抜・学校推薦型選抜）に即した指導を柔軟に行った。その結果、国公立大前期合格段階で、東京大学1名、筑波大学20名、茨城大学16名、国公立大学85名の合格者（特進コース所属の現役生のみ）を出すことができた。</p> <p>1学年：面談を通じて文理選択に向けて職業・学問研究を進めた。SHクラスでは、卒業生講演、東大出張講義、大学入試応援など大学の魅力を発信した。特進クラスでは、学校推薦型選抜、総合型選抜を早い段階から意識させられるよう、ホームルームで講話を実施した。春休みには、生徒全員に興味関心のある分野のコンテンツや講義、ボランティアなどに参加すること及び、その報告を課している。</p> <p>2学年：8月末に大学訪問、9月に医師の学校訪問、10月に夢ナビライブ(オンラインでの大学研究室訪問)を実施した。また、HRでも進路に関する講話を随時行ってきた。その結果、学校推薦型選抜に早期に意識して専門分野への理解を深めようとする生徒もでてきた。3月より学校推薦型入試に向けた指導を本格化させていく予定である。</p> <p>3学年：学校推薦型入試を活用し、生徒の第一志望合格および国公立大学合格に繋げる指導を行った。また、個人面談を充実させ、進路希望に対する課題の掌握に力を注いだ。LHRを中心に入試制度についての指導を継続し、ミスなく受験に臨ませることができた。</p>	A
	③生徒指導	<p>挨拶の励行およびルール・マナーを守る社会性を身に付けることを念頭においた指導を行った。</p> <p>1学年：他者への配慮の大切さを、学年全体に周知させることができた。規則を遵守できない生徒には、一方的な指導ではなく、なぜ指導されたのかを考えさせ、その後生徒が自発的に改善していけるよう心掛けた。高校生の間でよく見られるトラブルが数件発生したが、いじめにつながるような事例はなかった。</p> <p>2学年：校則が改訂されたが、頭髪・服装に関しては大部分の生徒が守ることが出来ている。iPad・スマートホンに関する部分はルーズになってきている者がいるので、継続して声掛けを行った。例年より精神的に不安定な生徒が多く、保健室・相談室と連携して該当生徒のサポートを行った。</p> <p>3学年：社会の一員としての自覚ある言動と行動の確立を目標に掲げた。受験を控え、学習や進路への悩みを抱える生徒に対しては、保護者や教育相談部、スクールカウンセラーと連携を取りながら対応に当たった。</p>	B
	④特別活動指導	<p>1学年：体育祭や文化祭、蓼科宿泊学習など、学校行事に進んで参加する生徒が多数見られた。集団への帰属意識を養い、友人と協力して一つのことを成し遂げる達成感を得ることができた。また、ネイティブ教員による発話・スピーチ指導を行い、主体性の育成に努めた。</p> <p>2学年：体育祭、文化祭、修学旅行を通して、主体性と協調性を養った。インタレストラーニングの校外学習や自主的にボランティア活動に参加する生徒も多く、十分に目標が達成された。</p> <p>3学年：志望理由書の作成など進路学習を中心に学問的な興味関心につながる課題について調べたことで、学校推薦型選抜や一般入試に向けた基礎を確立することができた。また、これらの活動を通して級友との絆や自己の進路への意識を深めることができた。</p>	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
グローバル・スタディコース	①学習指導	実践的英語力、豊かな教養、批判的思考力、論理的思考力を身に付けることが目標である。 1年：アクティブ・イングリッシュにおいて英語プレゼンテーションの技術を身に付け、論理的思考力を養うことができた。アイヌ学習を通じてマイノリティの理解を深めることができた。英語能力向上では英検を準1級2名、2級15名が獲得している。 2年：アクティブ・イングリッシュのディベートを通じて、高いレベルの論理的思考力と批判的思考力を身に付けることができた。英検は1級1名、準1級6名、2級14名が資格を得ることができた。 3年：総合型選抜入試対策の結果、総合型選抜入試で受験した多くの生徒が合格を勝ち取ることができた。英検は1級2名、準1級6名、2級20名、IELTS5.5（英検準1級相当）が4名、IELTS6.5（英検1級相当）が3名が取得し、力をつけて卒業させることができた。	A
	②進路指導	海外語学実習を含む様々な実習、LHR、探求学習の時間を通じて、生徒一人ひとりの興味関心を掘り下げ進路指導を行う。 1年：様々な実習及び講演会を通じて、生徒一人ひとりの興味関心の幅を広げることができた。特にオーストラリア短期留学では海外の生活文化及び学校スタイルを体験することで、さらに興味関心を深めることができた。 2年：カナダ中期留学及び様々な実習を通じて、生徒一人ひとりの興味関心を深め、それぞれの進路を定めることができた。 3年：、入試対策を徹底し、生徒一人ひとりの進路実現を達成した。 上智2名、ICU3名、立教2名、津田塾2名、青山・法政・中央・学習院・成蹊に各1名、日本大学9名、海外大学1名、他の合格実績が出ている。	A
	③生徒指導	グローバル・スタディコース生徒としての自覚をもって生活し、将来のリーダーとしての資質を身に付けさせる。 多様な背景を持つクラスメイトとの学校生活を通じて、将来国際社会で活躍するために必要な、多様性、柔軟性、を身に付け、リーダーシップの素養を身に付けることができた。	A
	④特別活動指導	学校行事及び部活動への積極的な参加とリーダーシップの養成。 部活動や学校行事に積極的に参加し、リーダーシップを発揮することができた。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
情報処理	①目標の設定について	I. 高校・中等共用仮想基盤の更新 II. タブレット端末と校務システムの融合	A
	②活動の実際について	I. 処理速度の高いCPUを使用する事により、コア数を減らして導入金額を抑えながら、トータルでの処理速度を落とすことなく更新することができた。 II. 欠席連絡と健康観察・出欠入力の手続きを工夫したが、ほとんど作業に着手できなかった。	C
	③活動の点検について	I. 定期的にCPUやDISKの使用率をモニタリングし、パフォーマンスが低下していない事を確認している。	B